

中学校第1学年 道徳 学習指導案

期 日 平成23年10月28日(金) 第5校時

場 所 水俣市立水俣第二中学校1年1組教室

指導者 教諭 池田 雄一郎

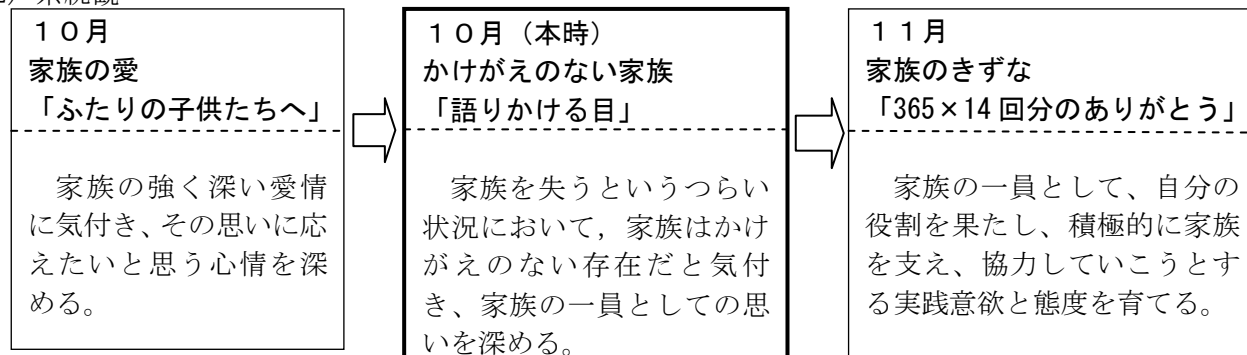
- 1 主題名 かけがえのない家族〔内容項目4－(6) 家族愛〕
- 2 資料名 語りかける目(出典 暁教育図書「自分を見つめる」)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、父母や祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚を持って充実した家庭生活を築くことをねらいとしている。家庭は、人を産み育てる場であり、疲れた心身を癒す安らぎの場である。信頼の絆で結ばれている家族がいるからこそ、私たちは毎日、安定した気持ちで過ごすことができる。しかし、存在することが当たり前と思ってしまう家族だが、だれにとってもいつまでも続くものではない。そのことに気づくことで、初めて、家族のかけがえのなさや絆の深さを実感させられることもある。今日、家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は様々ではないが、その家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることを自覚することは大切である。

中学生のこの時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。このような時期に、自分も家族の一員として積極的に家庭生活を築こうとすることの大切さを実感させたいと考え本主題を設定した。

(2) 系統観



(3) 生徒観

内容項目4－(6)に関するアンケート結果は以下の通りである。

(N=26 10月実施)

質問事項	よくある	たまにある	あまりない	全くない
家族を大切にし、自分も家族の一員として責任を果たすことは大切だと感じる。	8	9	5	4
家族の一員としての自覚をもち、家の仕事など積極的にしている。	4	15	9	0
家族(親)に対して感謝し、言葉で「ありがとう」という気持ちを伝えている。	16	5	2	3
団らんを避けたり、反抗的な態度をとったりすることがある。	1	7	11	7
家族と会話することが嫌だと感じたり、一人でいたいと思ったりする。	1	5	9	11

家族を大切にし、役割を果たすことを大切と感じる生徒が比較的に多いが、意識の差はみられ、家の仕事に協力しようとする態度にも差がある。しかし、多くの生徒が、家族に対して感謝の気持ちを持っていると答えている。一方、会話を避けたいと思うなど反抗的な気持ちを持っている生徒も見られる。

また、「あなたにとって、家族はどんな存在ですか」という質問に対して、すべての生徒が「大切な存在」「かけがえのない存在」と答え、その理由として「相談にのってくれる」「自分のことを考えてくれる」「自分の産んで育ててくれた」などを挙げている。「一人でも欠けると家族ではない」など家族全員を大切に考える生徒も数名見られた。その一方で、「ものを買ってくれる」「大人になるまで大切な存在」という回答も見られ、家族という存在が当たり前であるという意識を持っている生徒もいる。

このような実態を踏まえ、生徒一人一人に家族について自分なりに見つめさせ、その意義について深く考えさせる機会を持つことは大切だと考える。

(4) 資料について

資料「語りかける目」は、阪神・淡路大震災で母親を亡くした少女が、「ナベ」に母の遺骨を入れ涙ながらに語った話を警察官が手記としてまとめたものである。震災から十数年の歳月が経過し、生徒には、あのすさまじい光景の記憶がほとんどない。だが、今年の3月の東日本大震災での、悲惨な現実、様々な情報手段によって見聞きしているはずである。震災で、少女を襲った残酷すぎる現実が痛いほど心に突き刺さる資料である。母親のわが子を思う愛と一人生き残った少女の悲しみから、家族の絆の強さとかけがえのなさについて深く考えさせられる資料である。

(5) 指導観

- 前時では、親の深い愛情について考えさせるとともに、その思いに応えたいという心情を深めるため、家族への一行詩を書かせる言語活動を取り入れた。導入時において、前時の一行詩を紹介し、それぞれの家族への思いを想起させ、今の自分を見つめさせる。
- 展開前半では、必死で母親を助けようとしたにもかかわらず、それが叶わなかった少女の悲しみや苦悩に共感させる。また、少女の置かれた状況の悲惨さを想像できるように当時の様子が分かる画像を補助資料として提示する。
- ねらいとする価値に迫るために、ナベの中に母親の遺骨をいれて守り続ける少女の思いを考えさせる。自分とのかかわりで考えさせる手立てとして、同じ状況ならどんなことを考えるか、数日間でのどのような心の変容があるかなどの補助発問を工夫する。
- 異なる考えにふれ自分の深めさせるため、複数の付箋紙に自分の考えを書かせ、それを基に考え交流させた後に、KJ 法的な手法を用いグループで整理させる。
- 展開後半には、前時と同様に家族への一行詩を書くという言語活動を設定し、家族への思いを深めさせる。また、作品は評価の資料の一つとする。
- 授業終了後は、自己評価カードを用い、各自で自己評価させ、評価の資料とする。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の視点から

- 内容項目4－(6)における道徳的判断力を育てることを本時のねらいとして設定する。
- 評価の観点として「道徳的価値の理解」「自分とのかかわり」「自己実現への意志」を設定し、それぞれの観点に沿って具体的な生徒の姿を想定した評価規準を設定し生徒の変容を把握できるようにする。本時では、「自分とのかかわり」と「自己実現への意志」の観点を重視する。
- 生徒が自分の考えを基に異なる考え方に触れ考えを深める言語活動として、母の死後少女の心の変容についてグループで話し合う活動と自分の家族に対する思いを一行詩に表現するという活動を設定し、評価場面とする。
- 評価場面では、生徒が自分の思いや考えを主体的に表現するような手だてや言葉かけを積極的に行いできるだけ個に応じた評価を行うようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

家族を失う苦しみや悲しみ、親子の強い絆に触れ、家族はかけがえのない存在であることに気付き、家族の一員として家庭生活を築こうとすることへの思いを深める。

(2) 評価規準

観 点	評 価 規 準	評価方法
道徳的価値の理解	○母親を失った少女の苦しみや悲しみ、親子の強い絆について考え、家族はかけがえのない存在であることの思いを深めている。	・学習の様子 ・学習後の自己評価
自分とのかかわり	○少女の気持ちを自分なりに考え、グループの友達と意見交換することで、自分の考えを深めている。	・付箋紙の記述 ・ワークシート ・話し合いの様子
自己実現への意志	○かけがえのない家族についての考えを深め、大切にしたいという気持ちや自分にできることなどを一行詩に表現している。	・一行詩 ・学習後の感想

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	○主な発問	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 阪神淡路大震災について知る。【一斉】	○阪神淡路大震災を知っていますか。	○当時の状況について写真を見せながら簡単に説明する。 ○予期せぬ災害で家族を亡くした人の悲しみを想像させる。	震災の写真
展開 40分	2 資料「語りかける目」を読んで考える。 (1) 母親を助けようとする少女の必死な思いとかなわなかった少女のつらさや悲しさに共感する。【一斉】 (2) 母の死後の少女の思いを考える。 ①自分の考えを付箋紙に書く。【個人】 ②グループで考えを整理する。【グループ】 ③全体で出し合う。【一斉】 3 これまでの自分の生活を振り返り、家族への一行詩を書く。【個人】	○震災の起きた日少女は、どんな経験をしましたか。(その時どんな気持ちだったのだろう。) ○次の日、少女はどこで、何をして過ごしたのだろう。 ○母の遺骨をナベに入れて少女は、警察官に会うまでどんなことを考えていたのだろう。 (○数日間に少女は、どんな光景を見てどんな考えが浮かんだのだろう。) (○自分だったら、どんなことを考えるかな。) ○グループで意見を出し合い、整理しよう。 ○グループの意見を発表してください。 ○語り終えた時少女はどんな気持ちだったのだろう。(そう思えたのはなぜだろう。) ○今、あなたは誰のことを思い浮かべていますか。その思いを、一行詩に書きましょう。 ○今日の学習の感想を書きましょう。	○状況を理解させるため少女に起きたことを確認し、カードで時系列に提示する。 ○場面の状況を明確にしながら少女の苦しみや悲しみに共感させる。 ○母親の「ありがとう、もう逃げなさい。」と言った気持ちや母親を抱え込んだまま燃えるわが家を見ていた時の少女の気持ちは取り上げて考えさせる。 ○阪神大震災の画像を提示し、少女の見た悲惨な状況を想像させ、少女の思いに共感させる。 ○少女は母の遺骨をナベに入れ数日を過ごしていることを確認し、この間の少女の苦悩と変容について考えさせる。 ○教師は、自分とのかかわりで考えさせるような補助発問をし支援する。 ○少女の気持ちを付箋紙に書くことで自分の考えを持たせる。 ○グループで各自考えを出し合い異なった考えに触れさせる。出された考えは KJ 法的手法を用い、同じ意見、異なる意見など分類、整理し、互いの考えを深めさせる。 ○教師は、各グループの話し合いに積極的に参加し、多様な考えを引き出すような言葉がけをする。 【評価：自分とのかかわり】 ○少女の生きる力を支えるものは、母親の少女への愛情であることを感じ取らせたい。 【評価：道徳的価値の理解】 ○前回書かれた詩の中から、数点を取り上げ提示する。 ○家族への思いが自分なりに深まるような言葉がけをする。 【評価：自己実現の意思】	カード 震災の写真 付箋紙 ワーク シート 一行詩 ワーク シート
終末 5分	4 教師の説話を聞く。【一斉】	○これからの自分の家族とのかかわり方や思いを考えてみましょう。	○余韻を残し、これからの家族とのかかわり方を大切にしようという意欲を高める。	自己評価カード